



福島林業

No. **598**

題字 福島県知事 佐藤雄平



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

6

2014

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■雨あがり



森林・林業の復興再生に向けて

福島県森林組合連合会

会長 國井常夫

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から四年目を迎え、津波等震災被災地では、多くの方々の努力によって復旧工事が本格化しています。

しかしながら、未だに多くの県民が避難生活を余儀なくされているばかりでなく、汚染水漏れなど、改めて原発事故が継続していることを認識させられる悲しむべき事態も生じています。

全ての県民が安心、安全な生活を取り戻すためには、原発事故の早期収束、除染等の放射性物質対策の徹底が不可欠であると考えます。

さらに、県民の暮らしと密接な関係にある本県の森林・林業におきましては、きのこ原木や山菜等の出荷制限が続いているほか、東京電力による森林の賠償についても、ようやく条件案の提示がなされ交渉の緒に就いたばかりと、将来展望が持てず、関係者一同大きな不安を抱えたままの日々が続いており、育て上げた豊かな本県森林を守り育てていくことができないのではないかと危惧しております。

このような状況の下「ふくしま森林再生事業」が本格実施に至っていることは、林業生産活動と放射性物質対策の一体的実施の途が拓け、大きな希望となるものです。

また、今後の森林管理のあり方についても、国をはじめ各試験研究機関が実証試験に取り組んでおり、一定の成果が早期に得られるものと期待しております。

私達森林組合は、組合員たる森林所有者の負託と県民の期待に応え、森林整備を通して、本県の復興と豊かな自然が取り戻せるよう力の限り努力して参る所存です。

しかしながら、本県林業の再生を加速化するためには、早期に解決すべき課題もあると考えており、関係する方々のお知恵が拝借できるよう、何点かを問題提起させていただきます。

1 ふくしま森林再生事業について
 県民の当該事業への期待は森林除染と一体となった取り組みにあると言えます。

このため地域住民の意向を十分に踏まえ、その地域が真に求めている施策に取り組むことが必要であり、既存制度に囚われない柔軟な事業制度とすべきではないでしょうか。

またこの事業は、県内林業労働力を総動員して当たらなければならない規模と考えられますが、発注の平準化など地域の労働力の現状に十分配慮することが不可欠であり、さらに市町村業務に過度な負担を強いることも避けなければ円滑な実施が担保できないと考えます。

2 県産材の利用促進
 県の復興計画においても素材生産量は震災前の倍になると見込んでおり、その拠り所は前述の再生事業にあります。県外の業者には本県産の木材を使うことに戸惑いをみせる方もおり、放射性物質濃度測定体制の早期の構築と木質バイオマス燃料としての活用など幅広い県産材利用促進の対策が必要です。

3 立木賠償について
 我々が被った被害を正しく認識し、その損害を真摯に償うことが東京電力(株)の責務であることは言うまでもありません。

連合会と森林組合は地域の実情を訴え、組合員が納得できる水準での賠償を引き続き交渉して参りますが、一方で全損扱いとなった森林の今後の管理のあり方も早急に検討しておくことが必要です。以上三点を課題提起しましたが、この解決には皆様の英知と県のリーダーシップ発揮が不可欠であると思えます。

議論が深まり、より良い解決策が導かれることを切に希望します。

《も く じ》

とびら	福島県緑の少年団活動実績発表大会	5～6
森林・林業の復興再生に向けて	「緑の募金」街頭キャンペーン	7
福島県森林組合連合会会長	森と生きる「学校林の活用を考える」	8
國井 常夫	普及指導員通信	9
森林病虫獣害防止対策	森連だより	10
～ツキノワグマ対策～	苗協メモ	11
福島県森林保全課 主任主査 鈴木 比良	木材市況・ふくしま東西南北	12
～松くい虫、ナラ枯れ対策の例～	はなしのひろば	13
福島県林業研究センター		
主任研究員 蛭田 利秀		

森林病虫獣害防止対策

ツキノワグマ対策

福島県森林保全課 主任主査 鈴木比良

○ツキノワグマによる剥皮被害 (クマハギ) の発生

クマハギは、本県では会津地方を中心に、間もなく主伐の時期を迎えるようなスギ、ヒノキ壮齢人工林のほか、間伐の直後など林内が整理された状態の造林地での被害発生が報告されています。

また、予防対策等により、平成二

四〇二五年度の被害報告はないものの、ツキノワグマの生息状況の変化等により、今後の発生が懸念されています。

○クマハギの特徴

クマハギは、(写真1)及び(写真2)被害状況のとおり、幅五センチメートル程度、長さ一〇センチメートルの樹皮が樹木と

つながっており、被害後、間もなくであれば、垂直に三〇五本の歯の跡が残されています。

これに対しシカによる剥皮被害(シカハギ)は、剥がされた樹皮の幅が数センチメートル、長さが一〇センチメートル程度と細かく、地面に散乱していることが特徴です。

○クマハギの対策

本年度は、県行造林地を対象に(写真3)テープ巻き、(写真4)バンド巻き等の予防対策を実施するとともに、個人所有林や公社造林地等を対象とした補助事業を実施する計画です。



(写真1) 被害状況



(写真2) 被害状況



(写真4) バンド巻き



(写真3) テープ巻き

「松くい虫、ナラ枯れ対策の例」

福島県林業研究センター 主任研究員 蛭田利秀

○はじめに

森林病虫獣害対策は非常に難しい課題です。広大な森林の中で樹病や虫害、獣害などと対峙しなければなりません。森林

病害虫防止対策として、どうしても数多くの手法がとられるのか対策の考え方から整理してみます。

写真―1は本県を含め、全国的な課題である「松くい虫」や「ナラ枯れ」に対する被害防止

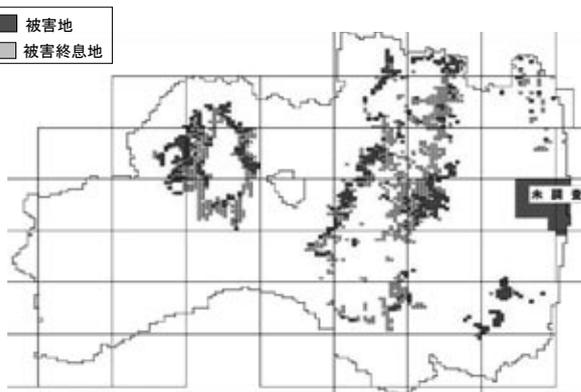


写真―1 様々な対策（左から薬剤の地上散布、NCSくん蒸処理、樹冠注入）

対策の例ですが、現在、これらの被害対策については、様々な書籍、パンフレット、ホームページなどで詳しく説明されており、皆様も参考にされていると思います。加えて、被害対策の現場からの声や諸先輩方の経験なども、私達にとつてとても有意義な助言として大いに役立つものと考えています。

○被害木を見つける

どこに被害が発生しているかを把握することは、森林病虫獣害に対処する上で最も基本であり重要なことです。それは、松くい虫やナラ枯れは「早期発見、完全駆除」が、基本とされるからです。未被害木が多い地域での被害木の探索、そして、点在する被害木を完全に駆除することは、労力もかなり簡単なことではありませんが、被害が小さいうちに駆除することで、被害拡大を未然に防止することになります。また、被害木、または被害地域を把握することは、どの地域に対策をとらなくてはならないか判断する材料になります（図―1）。



図―1 被害地把握の例（カヅラマルカイガラムシ（2013年））

また、被害対象の樹木がどこにあるか知っておくことも対策の一つです。松くい虫の場合には、アカマツやクロマツなどの林分がどこにあるか、ナラ枯れの場合には、ミズナラやコナラなどの林分がどこにあるか把握することになります。被害対象木の分布を知っておくことで、被害木探索の労力を軽減できますし、被害が拡大した場合には、重点的に防除しなくてはならない地域を絞ることも可能になります。

○被害対策の組み合わせ

対策というと防除を連想する方も多いかと思いますが、防除と一言で表す場合が多いですが、防除は、「予

防」と「駆除」に区分され、対策としては二通りのものが位置づけられます。一般に「予防」は健全木を対象に、「駆除」は被害木を対象に行う対策となるので、分けて考えた方が整理しやすいかと思います。

松くい虫の防除対策を例に挙げると、健全木（健全な林分）が松くい虫の被害木になることを防止するため、薬剤の空中散布や地上散布により、マツノマダラカミキリの後食時に成虫を殺虫することで、マツノザイセンチュウが樹木の中に入ること防止しているので、健全木を対象に「予防」をしているということになります（厳密にいうとマツノマダラカミキリを殺虫して、個体密度を下げることもなるので、駆除も含まれているかもしれません）。

しかし、広域な森林を対象に「○」が「予防」ということは難しく、薬剤の空中散布や地上散布を行った場所でも、どうしても被害木が発生してしまいます。そこで、被害木に対して、NCSくん蒸処理などの処理を施し、新たな被害の温床とならないようにマツノマダラカミキリの幼虫やマツノザイセンチュウを殺虫します。被害木を対象に「駆除」をしているということになります。

「予防」と「駆除」は、別々の対

策ですが、一つの場所でも、組み合わせで行うことが多く見られます。さらに、前項の「被害木を見つければ」を合わせて、大きく分けて三つの対策を組み合わせながら、被害に対応することが適切です（図1-2）。

○何を対象に対策するか

松くい虫やナラ枯れ被害への対策が様々で、わかりにくいと考えられる原因の一つに、「樹木」、「媒介虫」、「病原体」の三者が存在していることが挙げられます。松くい虫では、アカマツ・クロマツなど（樹木）、マツノマダラカミキリ（媒介虫）、マツノザイセンチュウ（病原体）、ナラ枯れでは、ミズナラ・コナラなど（樹木）、カシノナガキクイムシ（媒介虫）、ラファエレラ・クエルキボラ（通称、ナラ菌）（病原体）となります（図1-3）。

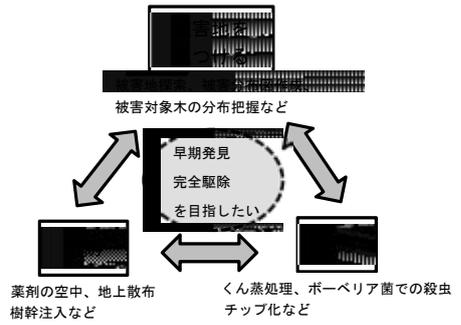


図-2 対策の大きな分け方

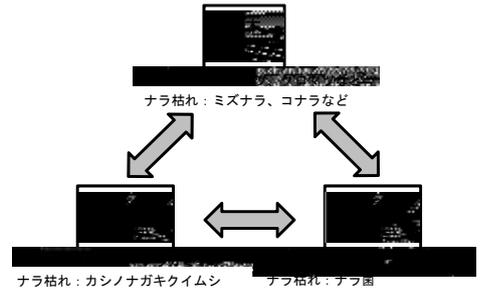


図-3 対策の対象

例えば、処理の手法は異なりますが、松くい虫にもナラ枯れにも、NCSのくん蒸処理による駆除があります。これは、主に「媒介虫」を対象とした対策となります。また、薬剤の種類は異なりますが、松くい虫もナラ枯れも予防に樹幹注入があります。これは、「病原体」を対象に健全木の中で増やさない対策になります。「樹木」を対象にする対策もあり、松くい虫の場合は、守るべき松林の周辺マツの樹種転換、ナラ枯れの場合は、カシノナガキクイムシがミズナラやコナラの大径木を好むことから、被害を受ける前に大径木を伐採して利用してしまうというものです。

薬剤のみの対策では、限界があることから、今後、森林管理や木材の利活用による対策が、ますます重要になります。

理屈からいえば、三者のいずれか一つを無くしてしまえば、被害の発生はなくなると考えられます。このことから、三者それぞれに、いろいろ

るな対策が考えられてきたため、何を対象にしているのか分かりにくくなってしまったようです。

○感染から伝染のどこを止めるか？

松くい虫やナラ枯れは、マツノマダラカミキリやカシノナガキクイムシ（媒介虫）がマツノザイセンチュウやナラ菌（病原体）を次から次に樹木に移していく樹木の病気とされます。感染から伝染のサイクルのどこかを止めることによって、被害発生が防止されます。前項と考え方は一緒ですが、三者の活動時期など（生態）を考慮することになります。先ほどから紹介している予防である薬剤の空中散布や地上散布は、媒介虫からの「感染」を止める対策で、同じく予防の樹幹注入は、病原体が「感染後」に樹体内で増えるのを止めています。また、駆除であるNCSくん蒸処理は、媒介虫による病原体の「伝染」を止める対策となります（図1-4）。このサイクルの、どこを止めるかによって対策が異なりますし、複数でとめる場合があることは、「対策の組み合わせ」で述べたとおりです。

○おわりに

現実には、松くい虫やナラ枯れなど森林病虫獣害に対して、一つの対策のみで被害を完全に防止することは困難であるのは事実です。このため、あの手この手と対策が開発されており、どの手法で、どこを対象にどう組み合わせるかで、有効な対策が立てられるのではないかと考えられます。森林保護の担当者は、できるだけ森林被害防止策を完全なものにするため、複数の対策で対応することになりますが、複数の説明などを行う際には、なかなか理解してもらえず苦慮する場面も多いかと思えます。そんな場合の考え方を整理する一助になれば幸いです。

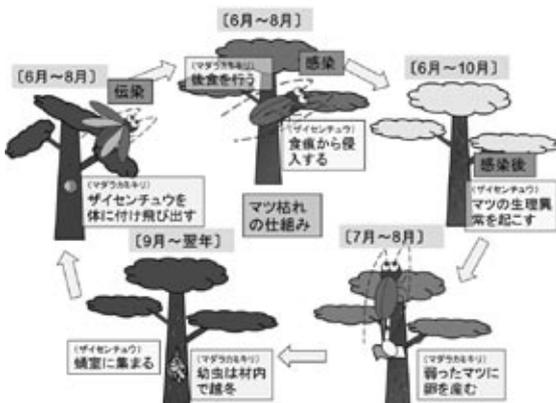


図-4 感染から伝染のサイクル（松くい虫の例）

平成26年度 第35回 福島県緑の少年団活動実績発表大会

日 時 2014. 5. 22(木) 10:30~13:30
場 所 ビッグパレットふくしま 研修室（郡山市南二丁目52）
主 催 福島県緑の少年団育成協議会
公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会
後 援 福島県 福島県教育委員会 関東森林管理局

5月22日、郡山市の「ビッグパレットふくしま」において、「平成26年度 第35回福島県緑の少年団活動実績発表大会」を開催しました。

本大会は、毎年、新緑が美しいこの時期（5月）に開催しています。

今回、7団の緑の少年団が参加し、発表では、各少年団の代表（団長、副団長等）がこの一年間取り組んできた学習活動、奉仕活動、レクリエーション活動について、写真パネルで紹介しながら発表しました。

審査講評のなかで、審査委員長の県教育庁社会教育課主幹の永瀬功一氏からは、「どの少年団もそれぞれの特徴を活かしながら、創意に満ちた活動を展開していて、他に負けない素晴らしい活動をしている」、「緑の少年団の活動で培ってきた、活動や体験のなかで喜びを感じたこと、身近な人・地域の人たちへ感謝すること、そして自分の学校やふるさとに誇りをもつこと、そうした心を大切に自分でできる活動を続けてほしい。また、後輩にもその良い伝統を引き継いでほしい」と述べられました。

審査結果は次のとおりです。

表彰式は、7月29日（火）開催予定の第40回福島県緑の少年団大会（相馬市「相馬市民会館」）の席上で行う予定です。

福島県知事賞

会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団／会津若松市立川南小学校

福島県教育委員会教育長賞

会津若松市立大戸小学校緑の少年団／会津若松市立大戸小学校

関東森林管理局長賞

中一みどりの少年団／石川町立中谷第一小学校

福島県緑の少年団育成協議会長賞

矢祭山みどりの少年団／矢祭町立内川小学校

奨励賞

猪苗代町立緑小学校緑の少年団／猪苗代町立緑小学校

飯豊小学校緑の少年団／小野町立飯豊小学校

会津若松市立謹教小学校緑の少年団／会津若松市立謹教小学校

各少年団の発表風景



会津若松市立大戸小学校緑の少年団



会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団



矢祭山みどりの少年団



中一みどりの少年団



大会風景

平成26年度

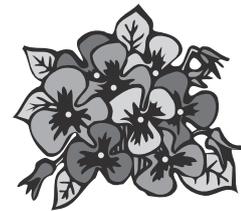
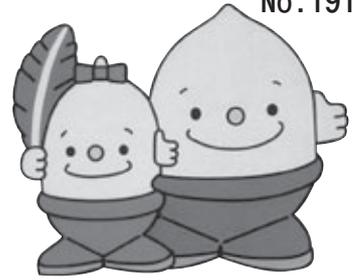
「緑の募金」街頭キャンペーン

緑化運動標語 「木を植えて 百年先の 森づくり」

日時 平成26年5月10日（土曜日） 13:30～15:00
場所 JR福島駅東口駅前広場、阿武隈急行線福島駅前、
中合ツイン広場前、大和証券(株)福島支店前
主催 福島市緑化推進委員会
公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会

緑の募金コーナー

No.191



5月10日、福島駅前周辺で「緑の募金」街頭キャンペーンを実施しました。

この街頭キャンペーンは、毎年、募金運動推進期間でもある4月1日から5月31日まで、より多くの人達に緑化思想の普及啓発と緑化事業の推進を図るため、そのPR活動として、福島市緑化推進委員会を中心に当協会と共催で実施しているものです。震災後2年間は中止しておりましたが、昨年度から再開しました。

市内の荒井小、岡山小、佐倉小、佐原小の4小学校の緑の少年団を含め、総勢90名が参加し、少年団の子ども達は強風が吹く中、大きな声を出して、一生懸命、街行く人達に募金を呼び掛けました。

募金に協力していただいた方には、緑の羽根をお渡しする際、次の花苗、花の種も配布しました。

- ベゴニア、マリーゴールドの花苗
- カモミール、サルビア、ひまわり、マリーゴールドの花の種

小さなお子さんからご年配の方まで老若男女問わず、募金に協力していただいた多くの皆さん本当にありがとうございました。

緑の募金は、緑豊かな潤いのある美しいふくしまをめざし、緑化の推進、森林の整備、次代を担う青少年の育成、森林ボランティア活動の支援などに活用させていただいております。

今後とも、「緑の募金」へのご協力をよろしくお願いいたします。



森と住む「学校林の活用を考える」

福島県もりの案内人 阿部 紀久雄

昨年、久しぶりに学校林での「森林環境学習」の依頼があり現場に行ってみた。

学校林として、手入れの行き届いていた頃のこの森林は、秋になると森林の恵みの豊富な、地域の人々にとっては、本当に大切な森林であり、生活のための収入源にもなる素晴らしい山であったと、へばりつくように点在する家に住む老夫婦が話していた。今では、限界集落に近いこの地域に小学校があった頃の話として聞いてきた。

学校林として植樹されたスギやアカマツ等の林木は、伐期も近づいていると思われるが、国産材の安値が続いている今日においては、木を切り出すことも出来ないだろう。何よりも、地域の人々が気力をなくしているとすればなおさらなことだ。そこで、「森林環境税」を活用した、新しい形の学校林として復元してはどうだろう。財産形成の森林か

ら、教育や環境保全の森林として蘇らせることができれば、一度は子ども教育の為に、故郷を離れていった若いひとが、子ども教育を終わった時点には、再び、故郷に戻ってくる事が出来るのではないかと思う。

また、田舎くらしを望んで、都会から移住する若者が日本各地で増加している。福島県では、喜多方市や西会津町、西郷村等でも様々な移住者が生活している。再生可能なエネルギーを使用する、新しい形の集落として再生する夢を持つことが期待できないか考えてみる価値はあると思う。

私は、福島県もりの案内人として活動をしている傍ら、畑を借りて農業の真似事をしている。それが、大型哺乳動物や外来動物の影響をまともに受けているのが現状である。これも、太平洋戦争後、農家の次男、三男対策として開墾を国策として進

めてきたことに起因している？。大型哺乳動物たちは、一旦は、山奥へと追いやられていたのだが、限界集落近隣地においては、耕作放棄地が年々増加している。そこへ一度追いやられた動物たちが、緩衝地帯のなくなった農地にわがもの顔で出没している、と私は思っている。

わずかに残っている、少数のこの地域にいる人々から、森林保全・回復の知恵、伝統的な山里暮らしの楽しみ方を学び、彼ら独自の生物への対応策が引き継がれていると思うので、この人たちの講話と現存する学校林を、もりの案内人や、森林組合員等の力を借りながら、児童・生徒たちが体験活動をするなかで、未来の学校林のありかたが見えてくるのではないかと思っている。最初の一歩を踏み出すには、今しかない。今、「森林環境教育」を体験している、児童・生徒が大人になる十・二十年後が楽しみな私である。

学校林を活用した

森林環境教育促進事業の概要

1 事業内容

学校林を活用して、小・中学校の森林環境教育(体験活動を含む)を促進するため、森林ボランティア団体等と連携して実施する。

2 事業助成

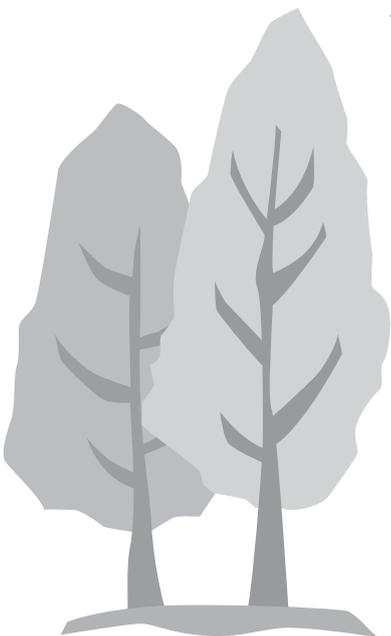
実施に必要な経費(三〇万円以内)を助成する。

3 その他

平成二六年度事業の募集は、終了しています。

4 お問い合わせ先

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会(緑化推進局)
TEL:〇二四一五二一一三
二四五



ふくしま森林再生事業の推進について

■県北農林事務所

林業普及指導員 松崎 明

1 はじめに

平成25年度から「原発事故によって、森林が広範囲に放射性物質の影響を受けており、森林整備や林業生産活動が停滞し、森林の有する水源かん養や山地災害防止などの公益的機能が低下している。このため、間伐等の森林施業と路網整備を一体的に実施し、森林の公益的機能を維持しながら放射性物質対策を行い、本県の森林再生を図ることを目的とする。」として、本事業が始まっています。

当管内も、対象地域の「汚染状況重点調査区域」（ $0.23\mu\text{SV}/\text{h}$ 以上）に全市町村が指定されており、全市町村での実施を目指して、事業の推進を図っています。

2 活動の内容

平成25年度は、森林整備課主催の市町村事業説明会（H25.4.16開催）の前後から、各市町村について個別に訪問し、事業内容の説明を行い、導入を促しました。また、県主催の現地研修会にも参加を願いました。その結果、管内8市町村の内6市町村で事業に取り組むこととなりました。昨年は初年度ということで、要綱要領の制定から、運用の整備等もあり、9月からの事業着手となりましたが、全体計画を6市町村で樹立、年度別実施計画を3市町で250ha予定することができました。森林整備については、面積43haを計画していて、現在実施中です。



県主催の現地研修会の様子



整備された森林（スギ林）

3 おわりに

今年度は、6市町村で森林整備面積170ha、路網整備を23,000m予定していますが、これらの円滑な事業進捗を図るために、林業普及指導員として市町村と連携しながら、森林再生事業（森林整備等）の推進に努めていきたいと考えています。

7月のお知らせ

◇両沼地方育樹祭

期日 7月2日(水)
場所 湯川村「笈川公園」
お問い合わせ先
湯川村緑化推進委員会
(TEL: 0241-27-8840)

◇森林づくり県民講習会

期日 7月3日(木)
場所 福島市「杉妻会館」
お問い合わせ先
公益社団法人 福島県森林・
林業・緑化協会
(TEL: 024-521-3245)

◇福島県緑の少年団

未来の森づくり大会
期日 7月29日(火)
場所 相馬市「市民会館」
お問い合わせ先
公益社団法人 福島県森林・
林業・緑化協会
(TEL: 024-521-3245)

団体のページ

平成23年度に創設された「農林中央金庫 復興支援プログラム」は、2つの柱から成っています。

- ①農林水産業者等を対象とした金融支援プログラム
 - 金融対応 利子補給・復興再生ローン(低利融資)等
- ②会員組織を対象とした事業・経営支援プログラム
 - 事業復旧 店舗・ATM・端末等のインフラ復興支援
 - 経営対策 会員の経営基盤強化のための支援等

本会は、②の会員組織を対象とした事業・経営支援プログラムからの御支援を受け、系統森林組合とともに、福島県産材を利用した木製品を平成24年度より寄贈してまいりました。

2年目を迎えた平成25年度は、福島県下の幼稚園や保育園へ積み木セット等を贈らせていただきました。

この積み木は、南会津町の間伐材を活用し、町内の木工所の職人さんが心を込めてひとつひとつ作られたものです。

積み木の箱を開けた時の「子供たちの笑顔」、「ありがとうの言葉」木とのふれあいによって、将来、木の良さやあたたかさを少しでも理解していただけたら、うれしいです。

たくさんの子供たちの存在が、ふくしまの復興の心の支えになっていることを感じた寄贈式でした。

森連だより

「農林中央金庫 復興支援プログラムの御支援による取り組み」



寄贈式の模様
ユーバロ保育園のみなさん

積み木セット▶



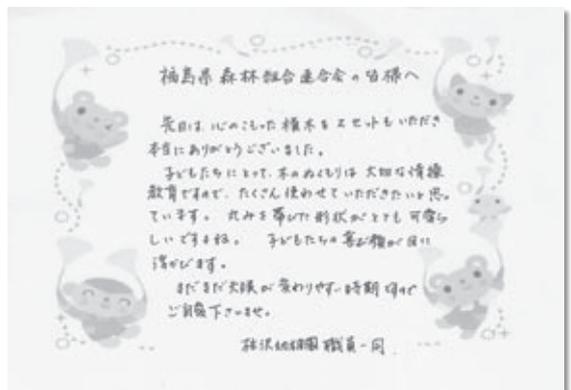
農林中央金庫 復興支援プログラムの本県におけるこれまでの実績

平成24年度

寄贈された品々	寄贈先
木製ベンチ・演台・チラシスタンド等	新地町 (公園・庁舎・小学校)
木製野外卓	いわき・ら・ら・ミュウ

平成25年度

寄贈された品々	寄贈先
木製ベンチ・木製野外卓等	いわき市フラワーセンター
木製椅子・丸太平均台・おみせやさん遊びセット等	相馬市 (小学校・児童センター)
「鎮魂の森」の苗木を守る木製防風柵	南相馬市(鹿島区沿岸)
積み木	福島県下202幼稚園・保育園



〈お寄せいただいたお便り〉
寄贈先である幼稚園・保育園よりたくさんのお便りをいただきました。
お便りは、御支援いただきました農林中央金庫福島支店へ写真とともにお送りし、御覧いただきました。
ありがとうございました。

苗協メモ

積雪地域における苗育ま
おけるスギを
コンテナを開催し
研修会をした

平成二六年四月七日(月)～八日(火)の二日間、秋田県鹿角市の黒沢事業所苗畑と岩手県住田町吉田苗木所を研修会場に会津地方の四苗木生産者十一名が参加し、「積雪地域におけるコンテナスギ育苗研修会」を開催しました。

改正された間伐材等及び特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本指針では、造林の低コスト化に向けた取組の推進として、特定母樹が有する特に成長に係る特性を活用し、単位面積当たりの植栽本数の低減や下刈りの省力化、特定母樹から採取する種穂を用いたコンテナ苗の活用等による造林・保育の低コスト化に向けた技術の確立及び普及の推進に努めるとしている中、今後、積雪地域でのコンテナ育苗は避けては通れないことから、すでに積雪地域でコンテナ苗の生産をしている生産者を訪



福島県農林種苗農業協同組合



雪対策をしていないスギ苗畑

問し、積雪地域のコンテナ育苗が抱える課題を解消する現地研修会を実施しました。

生産者を訪問する前に移動バスの中で最低一人で一つは質問することをお約束として、初日の研修地黒沢良勝さんの苗畑で積雪地域のコンテナスギ育苗を研修しました。

研修結果は、

降雪期間は↓会津と同じ…安心
雪の重さは↓会津の三月以降…安心
重い雪は降らない…少し不安
コンテナ雪囲いは↓特にしない
…重い雪が降る会津は対策が必要…少し不安
播種時期は↓二月～六月、中には秋に準備する方もいます…安心
培土は↓ココピート+けい石(水になじませるため)…なるほど
出荷は↓二夏過ぎた秋には出荷…なるほど

雪国でもコンテナスギ育苗は可能であることを体感し、二日目の研修地、岩手県住吉町 吉田正平さん苗畑で積雪地域におけるコンテナ育苗の心得を研修しました。
吉田さんは、本県のコンテナ栽培者との技術交流のある方で、「まずはコンテナ育苗に取り組むことだ、失敗することで体が育種技術を覚える。」自分が失敗した育苗事例を包み欠かさずの説明していただき、ありがとうございました。

研修結果は、

降雪期間は↓雪が降っても五〇センチ、三月に重い雪も降る。…会津と同じ安心
コンテナ雪囲いは↓コンテナを斜めにする…会津の雪対策…少し不安
播種時期は↓二月～六月、作業場としてハウスがほしい…新たな整備費に不安
培土は↓コンテナに培土を詰める前にココピート+水を加える…なるほど
出荷は↓二夏過ぎた秋には出荷…なるほど



↑網は寒風防止です。コンテナを寝かした雪対策

今回のコンテナ育苗研修会は、積雪地域でも「できる」ヒントを得た研修会でありました。

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(3月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~9)	0	(0~0)	0	9 (7~11)	0	9 (7~11)	0
		10~13		並	スギ	14 (13~15)	1	9 (9~9)	0	11 (8~13)	0	12 (8~15)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	14 (14~15)	0	12 (12~12)	0	13 (13~13)	0	13 (12~15)	△1
				並	ヒノキ	23 (21~25)	0	(0~0)	0	16 (14~18)	△1	20 (14~25)	△1
		6.00	並	スギ	19 (16~23)	0	17 (8~25)	0	17 (15~18)	0	18 (8~25)	0	
			並	ヒノキ	32 (27~36)	△1	(0~0)	0	23 (18~28)	0	27 (18~36)	△1	
	20~28	3.65	並	スギ	15 (15~16)	0	13 (12~14)	0	13 (12~14)	0	14 (12~16)	0	
		4.00	並	アカマツ	12 (9~14)	0	(0~0)	0	11 (10~11)	2	11 (9~14)	0	
		1.80	並		7 (5~9)	△1	(0~0)	0	6 (4~8)	0	7 (4~9)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	28 (28~28)	0	(0~0)	0	30 (26~33)	1	29 (26~33)	0
並				米マツ	30 (30~30)	0	29 (29~29)	0	31 (28~34)	1	30 (28~34)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	27 (26~28)	0	27 (26~28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	32 (28~36)	0	32 (28~36)	0	
70~90		8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
			並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	
パルプ用材	-	-	並	マツ	4 (4~4)	△1	(0~0)	0	4 (4~4)	0	4 (4~4)	△1	
			並	広葉樹	4 (4~4)	△1	(0~0)	0	7 (7~7)	0	6 (4~7)	0	

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		8 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)		9 (8~10)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

二月の原木市場への入荷状況は、前月比九割減(前年比八割増)の二八、八八八立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比七割減(前年比八割増)の二九、〇七九立方メートルとなっている。
 三月の価格については、小幅の値動きがみられ、小保合いと



愛が重い

私は今年の春から採用となり、ほぼ初めて福島にきました。私は高校まで埼玉県で、大学生の頃は北海道で過ごしました。初めて直接見る相双管内の現状に心を痛めながらも、なんとかしなければならぬという決意とともに仕事に励んでいます。梅雨にさしかかり、今年もそろそろ相馬野馬追の季節を迎えます。国の重要無形民俗文化財にも指定され、東北六太祭りの一つになっているそうです。荒々しい神旗争奪戦もあり私も楽しみにしています。福島県出身でない私を相双農林事務所並びに富岡林業指導所の皆様はあたたかく迎えてくださいました。今回、ラーメンが好きだという私の課長がごちそうしてくださったのは相馬市と南相馬市の境の、国道六号沿いにあるドライブインのスリパチ味噌ラーメンオニ盛りです。メニュー表には五玉とありますが尋常な量ではありません。このお店ではゴマなどをすり鉢いっぱいのラーメンが普通盛りのため、オニ盛りはそれが五つ分の量、その重さは一〇キログラムを軽く超えます。四〇分で食べれば賞金三、〇〇〇円です。周囲のお客さんの冷やかな視線を



オニ盛りを見て笑顔が引きつる筆者

相双農林事務所 櫻井哲史
 森林林業部林業課
 浴びながら、一口また一口とほおばります。香ばしい味噌のスープに平太麺がよくからみとてもおいしいです。野菜がたっぷり盛られており、こつてりスープに野菜の甘みがかかっています。約十分が経過し、体をゆらし胃のスペースを空けながら着実に胃へ入れていきますが、どんだんのびる麺を前に敗戦模様。極い! (北大語でほんとにつらいの意) 六割程度食べたところでギブアップ。残念賞にバヤリースの缶ジュースをいただきました。重い胃と口から出そうなラーメンを手で押さえながら午後の仕事を勤めました。

はなしの
ひろば

梅雨の晴れ間

ここに二冊の追悼集がある。中学校教師だった佐藤吉助先生(旧伊達郡 梁川町 享年七一歳)と上枝絹代先生(福島市 享年三七歳)のものだ。お二人とも痛で八年間の闘病の末お亡くなりになった。その間、佐藤先生は、十四回の手術、一年以上の絶食をされ、上枝先生もまた「癌はあるけど私は病人ではない」という精神で向き合っていた。教師としての共通項は「生徒の心を心で感じとる教師」「正確な体育教育、英語教育をとおし生徒の道しるべ」となった。佐藤先生は、野球を、上枝先生は、民間レベルでの国際交流をゆるぎない軸として、それぞれの人生を生き抜かれた。そして、その中心の軸に向け何と多くの人たちが心寄せていったことだろう…。この追悼集に寄稿された何百人の人たちの思いとお二人の生きざまから、私は「人を信じ、人として毎日丁寧に生きよ」と示唆されたような気がする。

佐藤吉助追悼集には「晴れる日待ちわびて」、上枝絹代追悼集には「風がことばになる日」というタイトルがつけられている。どんなにか晴れる日待ち望んでおられたことか、どんなにかもう一度世界の風と巡りあいたかったことか…。

梅雨の一時の晴れ間、雲間から放射線状にのびる光芒は、まるで佐藤先生が天と地を結んだ道のようにだ。上枝先生の心地よい風のことばを感じながら、眼前の光の道を眺めている。穏やかに心が晴れわたり、光の道のもつともつと向こうを覗いてみたくなる。(都)

表紙の写真



「雨あがり」

第28回ふくしま緑の写真コンクールで銅賞を受賞した黒澤泰弘さん(いわき市)の作品。

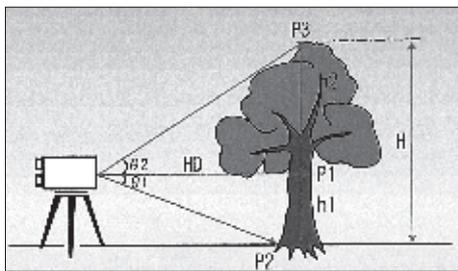
編集

発行人

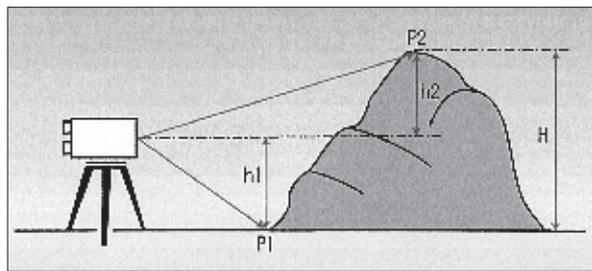
編集 福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林総合研究所福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)
発行 相馬 雅俊
陽光社印刷株式会社
(定価 一〇八円)

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

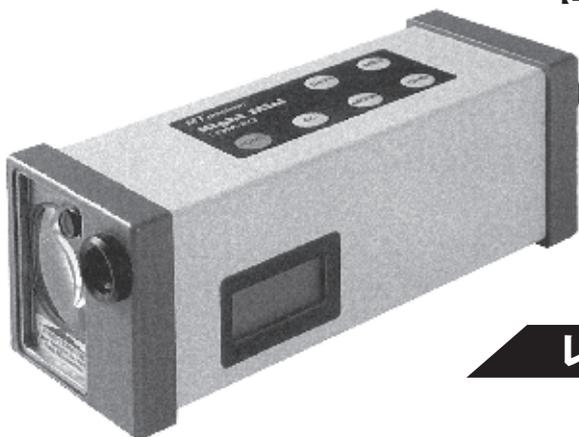


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	±5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

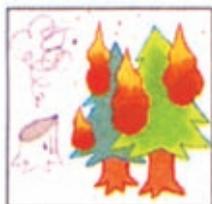
レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



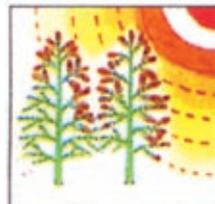
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



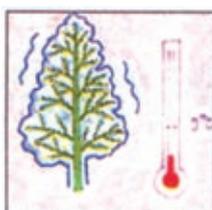
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

蜂さされ防止

ハチノックL (巣退治)
ハチノックS (携帯用)

大切な日本の松を守る 住化グリーンの林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)



住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号 TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

チッパシュレッダ



竹もOK!
SR3000-2
出力 22.3kW (質量1,330kg)
水冷ディーゼル
X379301020
¥3,375,000(税抜)

プロソー



GZ3900EZ
排気量 39.1cm³ (質量4.4kg)
RSP 21BPX 967159403 ¥108,000(税抜)
95VPX 967159303
HS 25AP 967159104
91VXL 967159204
HM 21BPX 967159404
95VPX 967159305



GZ4300EZ
排気量 43.1cm³ (質量4.4kg)
45cm(18")
RSP 21BPX 967160502 ¥133,700(税抜)
95VPX 967159902
HM 21BPX 967160504
95VPX 967159904

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1